

を行える研修を受けている。学校全体で企業との深い連携体制を築き、最新の実務知識を身に付けられるサポート体制。特に、現在の雇用市場では即戦力が求められ、現場で働ける力を身に付け、断然就職に有利！！

- ① 企業などと連携して職業に必要な能力が身につく！
 - ② 企業で実習・実技・実験などの実践的教育を受けられる！
 - ③ 学校内の授業でも、企業の専門家が講師
 - ④ 企業との連携により、学校関係者による評価・情報公開を実施 など
- 本学の教育は、如何に社会の人材ニーズを的確に読み取り、社会が期待する人材育成に役立てていくかを使命としている。

産学連携教育プログラムとしては、昨年度は「産学連携プロジェクト：FM 島田様との連携によるオリジナルキャラ&HP制作、FM ラジオ番組制作」チームが、平成27年3月16日17時30分から15分間生ONエア。(読売新聞社の取材あり) 授業では体験できない経験をさせていただき心から感謝です。

また、平成24・25年度文部科学省中核人材育成の戦略的推進事業「ゲーム分野産学連携型中核人材養成推進プロジェクト『GCS2014』(企業も参加)、このハイレベルなコンテストにエントリーして2年連続企業賞となる「Gree(株)賞」を受賞したことも大きな自信となっている。

5. 地域に開かれた魅力ある専門学校づくり

本学園は、**複合化(複雑化・多様化)社会**に対応すべく組織改革、カリキュラムの見直し、設置学科の改組、学習環境の改善(教育システムのeラーニング併用を予定)等を実施し、平成26年度からは卒業生たち等の社会人の「スキルアップ」や「学び直し」の場としての教育環境を構築。

また、本学のもう一つの教育目標である『地域に開かれた専門学校』の活動として、病院・福祉等の「ボランティア」、「レクリエーション」等の活動において、地域の方々との触れ合いを通して高い評価をいただいている。地域ボランティア活動やインターンシップ、全国的コンテストへのエントリー等を通して「より地域に開かれた魅力ある専門学校づくり」を積極的に目指す。

6. 新入生御殿場宿泊オリエンテーション

「なりたい自分になる」ために本学の学生としての心構えの徹底と一人でも多くの「心の友」をつくることを目的として実施。

本学の「**全人教育**」と「**よりよい就職をするために**」の具現化に向け、本学への入学目的を確認しあい、その達成を誓い合う。この成果を、目的達成のために、**前向きな姿勢**で学校生活を送り、しっかりと形にして、これから迎える就職活動で、また社会生活の中で、「これだけのことをやったんだ」という「**自信**」と「**誇り**」につなげる！

また、人生における人的財産となり、お互いに切磋琢磨できる「**心の友**」を、この専門学校生活の中で一人でも多くつくり、「友情を育み」大切にします。

「**朋友は 我が喜びを 倍にし、悲しみを 半ばにする**」

これからの君たちの日々の生活が、「感動」を求め、「充実感」、「達成感」ある生活であることを期待する。

7. 平成27年度「卒業生を囲む会」を開催 卒業生に感謝！！

電子情報は就職活動に既に入っているため4月、福祉医療は5月に開催予定。卒業生が仕事の時間を割き、また有給休暇をつかって来校。在校生が各設置学科を代表する卒業生から「学校生活上のポイント」や「職種毎の社会の現状」、「就職活動のポイント」等の活きた指導を受け**職業観、進路意識の高揚を図ること**と、また、教職員も「本学の指導内容に対する現場からの助言」等を受け、その必要性に応じて学校生活、学生指導に反映。

私たちは、卒業生の貴重な情報を今後の学校生活・就職活動に活かすことで、大事な時間を割いて来校してくれた卒業生に対する御礼とする。

8. 就職活動の面接指導：「己の人生を切り拓く就活！」

校長はじめ教頭、進路室長、事務長等を模擬面接官とした採用面接練習に臨むに当たり、事前に、次のことをしっかり自分のものにしておくこと。

- ① **己を知れ**：今までの人生で、また今後、身につけることができる**自分の売り**は何なのか、自分の就きたい職種につながるように纏める。
- ② **敵を知れ**：自分が就職を希望する会社、病院、施設等がどんな組織なのかをとことん**調査・研究**する。
- ③ 上記、①、②から**自分のことば**で「**志望の動機**」と「**自己PR**」を創り上げる。

その際、この専門学校での「**スペシャリスト教育：専門スキル**」を表現し、つぎに、高等学校生活やアルバイト等社会で身につけられたことを、希望職種につながるようにまとめる。

- そして、最後に「**仕事を通じて、自己実現を図る**」と結ぶ。
- ④そして、「**これだけやったんだ**」という自信を持って、失敗を恐れず、「**しっかり前を向いて**」自らの可能性を信じて、**元気よく「若さ」で勝負！！**

9. 新入生保護者様 後援会入会にあたり

平成27年度新入生の保護者様、本学園後援会にご入会いただきありがとうございます。

本学後援会は、後援会会則にもありますように、「学生に、より充実した学生生活を送ってもらう」という目的のもと、本学の教育と研究の両面で、就職活動をはじめ学生各種活動補助、入学式・卒業式に際しての援助、教育・研究環境整備への補助、専門職業教育学会、産学連携・学校連携等に関する支援など、多大なご尽力をいただいております。

つきましては、**学校教育と家庭教育の両輪**で、学生たちを胸張って社会へ送り出すため、今後も本学園の教育内容をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

「**成功する人**」：「**感謝の気持ち**」をいつでも表現でき、下記の項目を有する人

- ① 誰に対しても明るく笑顔を忘れず、**気持のよい挨拶**ができる人
- ② 物事を肯定的に考える (**プラス思考**) 人
- ③ 日々の生活が、将来を見据え、**明確な目的意識**を持って行動できる人
- ④ 豊かな感性を持ち、**想像・創造**することが上手な人
- ⑤ 社会が評価する**スキル、アイデンティティ**を持った人
- ⑥ 人生のステージ毎に一人でも多くの「**心の友**」を持つことの出来る人
- ⑦ 相手の立場に立った**コミュニケーション能力**を持った人

“There is a will! There is a way!”

「**ヤル気になれば道は開ける**」

◆『平成27年度の指導方針について』

教頭・教育部長 有賀 浩

建学の精神、校訓を根本とし、本学の伝統である「挨拶を基調とした全人教育」、そして「勉強と仕事を通して自己実現を図る」こと。グローバル社会を生き抜く為に「日本人としての自信と誇りを持ち、確固たるアイデンティティを確立する」。これら本学における職業教育の土台となる教育理念を確と心に据え、夫々の学科で目標とする職業に必要なスキル・資格を積極的に修得し、各自が目指す職場、職種への就業を果たすことが、高等職業教育機関としての本学の役割だ。

一日も早く学生個々の職業観を養い、スキルアップへのモチベーションを常に高いレベルに維持する。産業界・福祉・医療・保育等、各分野との連携＝産学連携教育プログラムに加え、学生相互に「創意進取の研鑽」を重ね、試行錯誤を通じ、クリエイティブな精神を大いに培う。プロフェッショナルとなった後も、それぞれの就職先で「現代社会の変化に対応」でき、自らキャリア形成ができる、自らの「質」を高められる人材となること。まさに校訓「技術は力なり 我は我が道を行く」ために必要な力を、修学期間中に一つでも多く身に付けよう。

こうした目標に向けて、今年度、両専門学校共に文部科学大臣から認可された「職業実践専門課程」としての責務も果たさなくてはならない。我々教員もまた多くのチャネルを駆使して、斯界のニーズを的確に反映したカリキュラムの構築と教育が最重要責務である。

産学官連携では、各界で活躍する卒業生を直接の窓口とし、企業、福祉施設、病院、幼稚園、地方公共団体などから協力・支援・指導を仰ぐための体制を一層強化。現場での貴重な実習体験に加え、昨年度数々の実績をあげたゼミナール（入学初年度はプロゼミ）活動を一層推進する。

また本学ならではのコラボレイト教育「ICT×福祉医療」、地域から高く評価されているボランティア活動も継続していく。

中核人材の育成についても専門学校での高度職業教育が大いに期待されている。平成27年度も文部科学省委託事業により、全国の専門学校と産業界、学識経験者とのコラボレーションによる教材開発とその普及が求められている。地元各種団体との活動も含め、引き続き積極的な参画を予定している。

本学がICT教育をスタートして30年目という節目の平成27年度、「質の高いプロフェッショナル」になるための着実な足跡を残し、その成果として優秀な人材を世の中に輩出する一年としたい。

*「職業実践専門課程」

専修学校の専門課程であって、職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行うものを、「職業実践専門課程」として文部科学大臣が認定して奨励することにより、専修学校の専門課程における職業教育の水準の維持向上を図ることを目的とするもの。平成26年度より新設された。

ICT情報システム学科長 早崎 賢治

ICTはもはやインフラとして社会にかかせないものであり、ICT環境の高度化・複雑化・グローバル化により、クラウドやビッグデータ、スマートデバイスなど、先進技術を活用したシステムを構築できる人材が求められています。

本学科では産業界とコラボレイトすることで実践的なスキルを習得することを目指しています。自分たちの学んでいることが、社会にどのように役に立つのかを肌で感じることで、スキル習得へのモチベーションを高めることができます。新入生のみなさんは、1日でも早く自分の目標とする業界・職種を明確にし、必要な技術・知識の習得に全力で取り組んでください。2年生は、自分の夢や目標の実現を目指して、これまで身につけてきたスキルを武器に、就職活動に自信をもって取り組んでください。

ICT映像・音響デザイン学科長 鈴木 正章

本学科はICT基本技術・社会人基礎力を土台として、映像・音響分野の実践に即した授業内容で最先端の技術や知識を身につけ、関連分野の企業とタッグを組んで即戦力となる人材を育成することを目指します。

この分野では、何より創造性＝クリエイティブな精神が求められます。そのためにも創り出したものを世の中にどんどん公開しましょう！世間から、時にはプロから評価を頂き、その結果を省みて、レベルアップを図る。まさにPDCAサイクルですが、これを修業期間中に一つでも多く経験しましょう。

誰しも最初からセンスが備わっているわけではありません。日本では古来より武道や芸術の世界で師弟関係を「守破離」という言葉で表してきました。始めは先人達の作品に触れ、模倣することから始めましょう。彼らの中にもどんな思いでどんな技術を注ぎ込んできたか、やがて理解できるでしょう。そこから独自の感性が磨かれるのです。

若きクリエイターの力を結集し、明日の日本をデザインしよう！！

テクニカル研究科長 早崎 賢治

ここ数年、注目されているITサービスをキーワードで表すとSMACとなります。具体的には「Social service」「Mobile」「big data Analytics」「Cloud」であり、これらのサービスは現在、普及期を経て成熟期を迎えており、今後も必要不可欠な技術となります。そしてこれらを支えているのは、コンピュータ・ネットワーク、情報セキュリティ、オープンソースの3本柱です。テクニカル研究科ではこの3本柱を学習指導の中心に据えております。

コンピュータシステムの設計・開発業務に要求される知識・技術は年々

高度化・多様化が進んでいます。よって本学科では、コンピュータの基本技術を習得した者に対してさらに、ネットワークシステム設計・開発・運用技術、情報セキュリティ技術、オープンソースを基調としたオブジェクト指向設計・開発技術を習得させ、高度システム設計・開発技術者を育成することを目指しております。

総合福祉学科長 磯野 博

本日入学が許可された皆さん、そして進級が決まった在校生諸君、おめでとうございます。新入学生の皆さんは期待と不安で一杯かと思えます。

皆さんには限りない未来が開かれています。この2年間・3年間はその未来を具現化するために与えられた貴重な時間「モトリアム（猶予期間）」です。皆さんは専門学校を選ばれたのですから、自らが望む専門職になれるよう、また、就職後も「果てない自己実現の道」を追求できるよう、まずは自分が何をしたいのか？を改めて考えてください。加えて、その専門職が働いている現場に足を運んでください。

とはいえ、一人で悩んだり暴走することはしないで欲しいです。在校生はいうにおよばず、各分野で活躍している卒業生も皆さんの力に必ずなってくれます。とりわけ、今回ともに入学された仲間は、生涯の「心の友」として支え合っていけることでしょう。

われわれ教員も、「皆さんがあつての我々、我々があつての皆さん」です。本学で出会えたご縁を大事にし、卒業後もともに歩んでいけるよう尽力します。

皆さんの限りない未来に栄えあれ！

子ども心理学科長 後藤 明子

新たな出発です！！学生と教職員が『希望先へ就職する』を目標に奮闘し、昨年めめでたく就職率100%を達成することができました。今年度入学する1年生は7期生となります。私たちの最終目標は今年度もそれから皆さんが卒業するときも変わらず、『全員が希望先へ就職すること』です。皆さんの夢を現実にするためには、早期に目標を定めゴールに向かい進むことです。今年度は、学科開設当初より「こどもたちの「こころ」と「からだ」の健やかな成長を見守り、あたたかいふれあいの『心』を大切に保育士・幼稚園教諭を育成する」という学生指導方針と併せて、「謙虚な姿勢と前向きな態度で、専門職としての知識・技術の修得に励む学生」を本学科の目標とする学生像として教育してまいります。保育者・幼児教育者となるために、まずは、「挨拶」「相手を思いやる気持ち」「礼儀」「行動力」を心がけ、学生の皆さんが、気持ちよく、充実した学生生活を送れるようにしていきましょう。

